

平成30年度 くれワンダーランド構想推進会議

意見の概要 と 取組の状況

【目次】	ページ
～ はじめに ～	1
「くれワンダーランド構想」の推進に当たって	1
1 観光振興	
(1) 観光コンテンツの拡充	2
(2) 情報発信の工夫	3
(3) 新たな観光推進体制	4
(4) 施設や交通の整備	5
2 創業支援	
(1) 継続的な創業支援	6
(2) 女性の創業支援	7
3 公共空間の利活用	8
4 大学，研究機関等との更なる連携，誘致等	9

「くれワンダーランド構想」の推進に当たって

くれワンダーランド構想は、これまでのように、市役所だけが主導して、予算や計画を組んで事業執行していくものではありません。

むしろ、市民の方々や民間企業等において、これまでにない新しい視点や大胆な発想で、自主的・主体的に取り組まれているワクワク・イキイキする活動が、呉市全体に広がっていくことを目指しています。

災害復興との関係性

豪雨災害からの本当の意味での復興に向けて、「くれワンダーランド構想」を進めていくことが、非常に重要です。

- 現在、市役所がなすべき最も大事なことは、被災された方々が一日も早く日常を取り戻し、安心できる、安全な、そして、これまで以上に幸せを感じる都市として、呉のまちを復活・再生させていく「豪雨災害からの着実に力強い復興」を実現することです。
- 更に、本当の意味での復興、街の再生を進めるためには、復興の実現と同時に、以前にも増して、女性や若者が今後も住み続けたい、外からも訪れてみたいと思えるような、これまで以上の魅力的なまちづくりが必要となります。
- そのために、市役所だけでなく、市民の方々や民間企業等を含めた市全体で、新たな呉市への進化を目指す「くれワンダーランド構想」を進めていくことが、非常に重要と考えています。

推進の方向性

くれワンダーランド構想推進会議は、何か計画を策定するのではなく、次のようなワクワク・イキイキする活動が呉市全体に広がっていくための仕組みを念頭に、幅広く意見や提案を交換していくものです。

＜ 広がる仕組み 例1 ＞

現在、芽生えつつある、市民の方々や民間企業等のワクワク・イキイキする活動を呉市全体に広げていくため、呉市役所や関係協力機関において、これらの活動に関する情報を積極的に収集し、発信する。

＜ 広がる仕組み 例2 ＞

産・学・官・金・医など各分野の団体の連携を深めるためのネットワークづくりや、公共空間の使用規制の緩和、使用方法の周知など、市民の方々や民間企業等の創意工夫を活かせる環境づくりを進める。

1 観光振興

(1) 観光コンテンツの拡充

(主な意見の概要)

- ▶ 観光は、既に体験型に移行している。「この世界の片隅に」のヒットにより、呉を訪れる人がだんだん増えてきている。
- ▶ 広島には、現状でも相当な数のサイクリストがいるが、これから、もっと増えると考えられる。また、海岸線、しかも、東に向かって島嶼部を走りたいというニーズも高い。
- ▶ すでに蒲刈や倉橋では、シーカヤックやSUPの体験コースを開催している事業者がおり、そのようなシースポーツを体験できる事業を支援する必要があるのではないか。
- ▶ 産業観光の中には、自衛隊も含めて考えるべきである。呉海自カレーは非常に素晴らしい取組だと思うし、これ以上のものをどんどん、作っていくべきだと思う。
- ▶ 国道31号・185号は、渋滞することはあるが、自衛隊の船などが通るのを見て子どもがすごく喜ぶ、という意見もある。
- ▶ なまはげがユネスコの無形文化財に登録決定したということがあり、また、呉の秋祭りに欠くことのできない「やぶ」は、他地域にはない独特の呼称で、その動作・風貌と併せ、地域おこし・町おこしのシンボルとなるのではないか。
- ▶ ニューヨークタイムズが、「今年訪れるべき52の観光地」の中の第7位に瀬戸内海の島々を掲げてくれている。これを活かさない手はないのではないか。

意見を参考とした取組の成果【H30年度】

① 呉鎮守府開庁130周年プレ事業（青山クラブ等の景観向上）

呉鎮守府開庁130周年プレ事業として、青山クラブ及び桜松館の窓枠に、アニメ映画「この世界の片隅に」の様々なシーンや、呉市立美術館と地元作家がコラボした作品を掲示する取組を、平成31年3月から開始しました。

意見を参考とした取組の検討状況【H31年度予定】

① 新たな観光コンテンツの育成（やぶ、伝統行事等）

「やぶ」を始めとした呉市の特色ある伝統行事を、文化振興・観光振興のコンテンツとして捉え、育成に着手することとしました。

② ロケツーリズムの推進

「この世界の片隅に」ファンに愛される新たな観光スポットとして、「(仮称) すすきさんに逢える丘」の整備を進めることとしました。

また、「復興！くれをめぐる」スタンプラリーでは、「この世界の片隅に」ゆかりのスポットを巡り、映画をモチーフとしたスタンプを使用することとしました。

③ 夜型観光の推進

夜型観光の推進の一つとして、芸人が屋台などを案内する「夜型まちあるきガイドツアー」を試行することとしました。

④ 呉港へのクルーズ客船誘致

瀬戸内海が、カリブ海や地中海のようなクルーズの海となることを目指し、国や広島県、周辺市町と連携しながら、クルーズ客船誘致に取り組むこととしました。

また、島しょ部の沖泊や利用状況に余裕のある既存のふ頭岸壁の活用を検討しながら、積極的なポートセールスを展開することとしました。

(2) 情報発信の工夫

(主な意見の概要)

- ▶ 様々な観光情報が、市役所や観光協会、呉地域観光連絡協議会、広島県のホームページなどにすでにあるが、分かりにくく、見る人の立場に立っていないのではないかとされる。市役所だけでなく、みんなで連携して考えて、分かりやすくすることが解決であると思う。
- ▶ 今の若者は、テレビよりスマートフォンを見ている時間の方が長い。ハッシュタグや英語表記など様々な工夫をして、SNSを最大限利用した情報発信を行ってはどうか。
- ▶ 多くの人が、観光するときにSNSを使って行先を決めている。Instagramを活用し、「呉市民だから知るいいところ」を発信し、観光ルートを開発してはどうか。
- ▶ Google MapsのMy Mapという機能は無料である。多くの人にこれを作ってもらえば、「呉はGoogle Mapsがすごくある」、「呉に行けば何でもGoogleの地図に載っている」というまちななる。
- ▶ 地図は、観光にとって大事である。交通機関は、繋がっていないといけませんが、Google Mapsが良いのは、スケールがあることである。

意見を参考とした取組の成果【H30年度】

① SNSを活用した観光PRの展開

平成31年2月から、Instagramを活用した観光PR企画「フォトジェニックレ」を開始しました。来年度は、「日本遺産」を重点テーマとするほか、「(1)観光コンテンツの拡充」での検討を基に、体験型観光についても積極的に情報発信します。

② 呉氏のデザインをもっと使いやすく

平成31年3月から、呉氏のイラストデザインを条件付きで事業者に一般開放し、より気軽に呉氏イラストを使用してもらうこととしました。

③ Google maps - my mapを広げる取組

市民の方々や民間企業、各種団体等にも御協力いただきながら、「呉にはGoogle mapsのmy mapがいっぱいある」状態を目指して取り組むこととし、平成31年3月から、ホームページにコーナーを新設しました。

意見を参考とした取組の検討状況【H31年度予定】

① 市全体で連携した情報発信

SNSキャンペーンやGoogle maps - my mapなどを活用し、市役所だけでなく、市民の方々や観光客も巻き込んだ情報発信を強化することとしました。

また、ホームページの相互リンクなどにより、関係団体間での連携体制の強化を目指すこととしました。

※ すでに呉工業高等専門学校、呉広域商工会、広島国際大学、広島銀行など関係協力機関の方々の御協力をいただきました。

② インバウンドに対応した情報発信

呉地域観光連絡協議会による従来の多言語ホームページの充実に加え、平成31年度から、呉地域の飲食店、宿泊施設等がメニューやマップの多言語対応を行う場合に、同協議会から翻訳費用を助成することとしました。

(3) 新たな観光推進体制

(主な意見の概要)

- ▶ 呉市にはたくさんの観光資源があり、高いポテンシャルがあるが、十分に生かし切れていない。官民ともに呉市の観光の方向性についての共通認識を持ち、観光に対する意識の醸成を図っていくことが重要だと思う。
- ▶ 市が中心になってやるばかりではなく、官民共同でやっていくということではないかと思う。市民が出来る範囲はあるが、一方で官が応援しないとできないことも結構ある。うまく産学官民連携の仕組みを作りながら進めていくのが良いと思う。
- ▶ 観光なら観光で、いろんな観光団体があり、情報が共有されていない現状がある。呉市は、竹原なども含む地域の中核都市であり、DMOを立ち上げて、観光振興体制を一本化したようなものがあればいいのではないか。
- ▶ 観光事業、集客交流事業の一番のネックは、人と組織である。つまりプレイヤーがどう育ち、動いていくか、そのための組織がきちんとあるか、ここがないと、DMOやDMCが動かない。
- ▶ 意識の醸成の手始めとして、呉市の観光関係団体や民間事業者など観光に関係する人、観光に興味のある人に参加をしてもらい、呉の観光について議論できる場を設けると良い。例えば、呉市の観光に関する連続した講演会や定期的なワークショップを開催してみてもどうか。
- ▶ 呉はインバウンドを含めたポテンシャルが非常に高い。それを背景に解決の方向性のSTEP1は、このためにいろんな分野の方が協働できるような場所を作る。一つのイメージは、市民の皆様がそれぞれ研究員となり、チームを作って、いろんな提案をしようというもので、そういう大きな流れが市内のいろんな活動につながっていく。

意見を参考とした取組の成果【H30 年度】

① 観光未来塾

新たな観光推進体制の構築に向けた取組として、実務者レベルの観光人材の育成を目的に、平成29年度に引き続き、丁野構成員を塾長とする「観光未来塾」を8回にわたり開催しました。

② 公開講座の開催

儲かる観光都市を目指し、観光関係者の機運醸成を図ることを目的に、平成30年10月に公開講座を開催しました。

意見を参考とした取組の検討状況【H31 年度予定】

① 連続講座・タウンミーティングの開催

新たな観光推進体制の構築に向けて、呉の観光の課題や方向性を共有し、意識の醸成を図ることを目的に、市民の方々、民間企業、関係団体等に参加していただく「連続講座」や「タウンミーティング」を開催することとしました。

(4) 施設や交通の整備

(主な意見の概要)

<全体>

- ▶ にぎわいは、歩いてもらうところからできる。
- ▶ 呉の街には、目的もなく歩き時間を過ごせる場所があまりない。
- ▶ 呉市は、JR、クレアライン、航路があり、通勤や移動について強みがある。
- ▶ 青山クラブは、多くの人の思いが詰まっている施設であり、市民の声を聴きながら検討を進めるべきではないか。

<道の駅の整備>

- ▶ 県内の「道の駅」の設置状況を見ると、広島市と呉市を中心に空白地帯になっている。各地域拠点に「道の駅」を設置し、呉駅を拠点に有機的につなぐ観点で考えるべきではないか。
- ▶ 「道の駅」は、駐車場が無料なので、相当広い駐車場がないといけない。クレアラインの途中、呉ポートピアに「道の駅」を設置してはどうか。

<海の駅の整備・活用>

- ▶ 「小型船舶の係留施設」を要件とする「海の駅」であるが、設置第1号となる「ゆたか海の駅」を始め、全く活用されていないというのは、寂しい限りである。

<新たな交通手段の整備等>

- ▶ 呉の地形を活かした新たな通勤・観光手段として、水上バスを走らせてはどうか。
- ▶ 灰ヶ峰と中心部をロープウェイで接続する「スカイレール」を整備してはどうか。

意見を参考とした取組の成果【H30 年度】

① 市民ワークショップによる青山クラブ等の景観向上【再掲】

呉鎮守府開庁130周年プレ事業として、青山クラブ及び桜松館の窓枠に、アニメ映画「この世界の片隅に」の様々なシーンや、呉市立美術館と地元作家がコラボした作品を掲示する取組を、平成31年3月から開始しました。

この取組は、市民がワークショップで議論し計画するとともに、掲示する原画の提供交渉等もワークショップ参加者が自ら行った、市民による取組です。

意見を参考とした取組の検討状況【H31 年度予定】

① ソフトメニューを活用した海洋観光拠点の強化

既存の「海の駅」の活用を促進するため、国のソフトメニューである「みなとオアシス」や「マリンチック街道」などへの指定に向けて、地域の方々や関係事業者とともに取り組むこととしました。

そのほかハード整備を伴うもの【H31 年度検討】

呉駅周辺地域の総合開発を始めとする、駅を中心とした市内の公共交通体系の在り方については、「呉駅周辺地域の総合開発に関する懇談会」において議論が進められており、今後は、関係権利者等も含め、より具体的な検討を進める予定です。

そのほか、「道の駅」や「海の駅」、「水上バス」や「スカイレール」など、大きな予算を伴う事業については、費用対効果、財源などの課題を整理・検討するとともに、引き続き、情報収集を進めることとしました。

※ 道の駅について、去る平成30年12月18日に一般財団法人 日本みち研究所 常任参与 杉崎 光義 氏に講演いただき、全国の状況について関係課で情報を共有しました。

2 創業支援

(1) 継続的な創業支援

(主な意見の概要)

- ▶ 若い人たちの頑張ろうという気運は高まっており、今後、より創業に繋げていくためには、例えば、福山市で実施されている「リノベーションスクール」のような事業があれば良いのではないかと。
- ▶ 事業を続けていくためのサポートがあれば、より長く続けられる。革新的なことに補助金が出るのがベストだが、究極的にはそれは、金融機関と取り組んだ方が良い。
- ▶ 起業家をトータルでサポートできるよう、息が長く、横のつながりを意識したサポート体制を進めるべきではないかと。
- ▶ 市においても、商工会議所などの関係団体においても、様々な創業支援策が実施されており、これからは民間でも創業の支援・サポートをしていきたいと思っている。そういったものを発展させ、取りまとめるような取組をお願いしたい。
- ▶ 日本各地、47都道府県全てが、多かれ少なかれ起業支援の仕組みを持ってやっているが、検証していくと、3年以内にダメになってしまう。支援策は、1回だけやれば良いものではなく、段階別にやっていかなければならないと、つくづく感じている。

意見を参考とした取組の成果【H30年度】

① 販路拡大セミナーの実施

本市の継続的な経営支援の取組として、平成29年度に引き続き、臼井構成員を講師にお迎えしている「販路拡大セミナー」を8回にわたり開催しました。

② 起業家支援プロジェクトの実施

平成30年12月にビジネスプランコンテストを開催し、支援機関参加による事業化に向けたブラッシュアップ勉強会やクラウドファンディング型ふるさと納税を活用した事業資金の支援を行いました。

意見を参考とした取組の検討状況【H31年度予定】

① リノベーションまちづくり事業

遊休不動産をリノベーションの手法で再生・活用することにより地域課題を解決する民間主導の取組を推進していくため、リノベーションスクールの開催等を通して市が後方支援することとしました。

② 段階的な創業支援に係る官民プラットフォームの構築

市役所の取組に加え、金融機関や学術機関で実施されている創業支援の取組を再確認し、各取組が「起業支援における段階的支援策」(第3回会議で臼井構成員からお示しいただいたもの)のどのステップに該当するか一覧できるイメージ図を作成し、各機関で共有・情報発信をするプラットフォームの構築に取り組むこととしました。

③ 広島大学呉サテライトとの連携

「起業支援における段階的支援策」の一環として、人材育成等を目的とした「起業に関する公開講座」を開催することについて、検討を進めることとしました。

(2) 女性の創業支援

(主な意見の概要)

- ▶ 女性の起業は、男性の起業と違って資格や趣味を生かした、プチ起業や週末起業など非常にいろいろなものがあり、皆さんが考える起業とは違ったものが多分にある。
- ▶ くれワンダーランド構想の一番の原動力となるのは市民の力だと思う。子育て世代や子育てを終えた世代、定年退職後の世代など、潜在労働力をまちの活性化や課題解決に活かせる仕組みや環境づくりが必要ではないか。
- ▶ ICTそのものは、実は、お金が掛からない。携帯、パソコン、Wi-Fi (Wi-Max) など、すでに素晴らしいICT環境があり、インフラはもうできている。様々なビジネスを行える環境がすでに整っており、それを使って何をやるかということが一番大事である。
- ▶ 創業セミナーなどの単発の支援ではなく、創業準備を進めたい女性が、日常生活を送る中で、子どもを遊ばせながら、子育てとやりたいことを両立できるような環境で、ミーティングや相談ができる場を設置してほしい。
- ▶ 女性の起業家同士のネットワークづくりの「場」、これは絶対必要である。女性だからこそ分かり合える悩み、例えば家族、介護、育児など、そこをうまく解決するような場づくりは是非とも行政にお願いしたいと思う。

意見を参考とした取組の成果【H30 年度】

① 公益的ビジネスに係るまちづくりセンター等の貸館利用料の負担を軽減

平成31年3月から、女性やプラチナ世代の創業でみられるコミュニティビジネスなどについて、その公益性を審査の上、公益団体として登録できるよう取り扱い、ミーティングなど短時間の貸館利用料について、減免の対象にすることとしました。

意見を参考とした取組の検討状況【H31 年度予定】

① 女性の創業支援プラットフォームの構築

市内の金融機関、学術機関等の御協力をいただきながら、各機関で実施されている女性の創業支援に関する取組が一覧できるリストを作成し、各機関で共有・情報発信をするプラットフォームの構築に取り組むこととしました。

② 女性創業家のネットワークづくり

呉市役所においても、関係協力機関等と連携し、女性の創業家の方々が集う場づくりに取り組むこととしました。

③ リノベーションまちづくり事業【再掲】

遊休不動産を再生・活用して創業に繋げるリノベーションまちづくり事業は、女性やプラチナ世代の創業でみられるコミュニティビジネスなどにも合致します。同事業では、そうした方々の参加を積極的に働きかけることとしました。

3 公共空間の利活用

(主な意見の概要)

- ▶ パーク P F I など、公共空間で事業展開できる制度はあるが、その前段階、例えば、マルシェやイベントを開催するようなケースでは、未だ、許可申請や規制などのハードルが高い。
- ▶ 中通は暗いという話があったが、単純に街灯を付けて明るくすればいいという問題ではなく、例えば、社会実験など期間限定でも良いので、道路に屋台を設けても良いエリアを作り、商業の光で埋めていくのが、本質の賑わいにつながるのではないか。
- ▶ 一般市民、潜在的な人たちで、イベントをしたい人がやりやすくするような取組をすれば良いのではないか。
- ▶ 都市再生推進法人という制度は、NPOやまちづくり団体など、民間がまちづくりを進めていくことができる制度なので、これを指定する上での審査基準の検討に当たっては、引き続き、関係団体の意見をしっかりヒアリングしてほしい。
- ▶ 周南市の商店街の取組では、物販店の出店促進エリアをあらかじめ決めて、その周りにテナントミックス対象エリア、昼に開いている店を集中的に置くような対策をしている。

意見を参考とした取組の成果【H30 年度】

① 公共空間の利活用に係るミーティングの開催

都市再生推進法人制度などにより公共空間を利活用したい方々と、市の関係各課により、平成31年1月から3月に掛けて、ミーティングを開催しました。

② ユニークベニユーの取組

入船山記念館において、試行的にユニークベニユーに取り組みました。
また、平成31年1月に、大和ミュージアムが、広島広域都市圏「ユニークベニユー等利用促進協議会」における「ユニークベニユー候補施設」に選定されました。

意見を参考とした取組の検討状況【H31 年度予定】

① 公共空間の利活用に係るミーティングをワーキンググループに移行

平成30年度に開催したミーティングを更に発展させ、本推進会議のワーキンググループへ位置付けることとしました。推進会議の構成員、関係協力機関の方々のほか、公共空間の利活用を検討されている方々にも御参画を願い、疑問や御意見を聞きながら、課題や改善策を共有することとしました。

② 公募・サウンディングの実施検討

①における検討の熟度を踏まえながら、公共空間の利活用（例：都市再生推進法人など）について、公募又はサウンディングの実施を検討することとしました。

③ ユニークベニユーの展開の拡大

大和ミュージアムや入船山記念館以外にも、呉中央棧橋ターミナルなどの公共空間を利活用し、民間主導でユニークベニユーを更に広げる方策を検討することとしました。

4 大学、研究機関等との更なる連携、誘致等

(主な意見の概要)

- ▶ 広島大学の呉のサテライトを呉市役所の中に置いて、社会人講座や技術相談などを展開してはどうか。
- ▶ 広島大学呉サテライトについてだが、広島国際大学、呉高等専門学校、文化学園大学など、元々ある大学と広島大学との連携というのも必要となってくると思う。
- ▶ 地域に貢献するグローバルリーダーを育成する大学を作ったらどうか。日本の文化あるいは呉の文化を知らながら、多様な人達、いろんな国の人達と国際交流ができる人材を作る大学が、一つあったら良いのではないか。
- ▶ AIの時代が確実に来る。データサイエンスエンジニアというAIを作るエンジニアを養成する学校を誘致してはどうか。
- ▶ 呉市が保有するデータをより詳細に公開することで、例えばGoogle, Facebook, Amazonなど、公共データを活用した人工知能の研究所などが世界中から呉に集まることが期待できるのではないか。
- ▶ 多くの方が「呉は医療が素晴らしい」という。景色がいい、地域がいい、人がいい、そして健康管理が良く、病気になったら看てもらえる、そういう流れを是非作りたい。「健康管理」が呉の特徴である。

意見を参考とした取組の成果【H30年度】

○ 広島大学呉サテライトの設置

広島大学と呉市の共同事業として、平成31年1月30日、広島大学呉サテライトを設置しました。3月7日に開設記念シンポジウム、3月13日にトライアル公開講座を開催しました。

意見を参考とした取組の検討状況【H31年度予定】

① オープンデータへの取組

AIの研究・開発に使われることを念頭に、事業者や研究機関にとって魅力ある、動的なデータの提供を目指すこととしました。

これらのデータは、研究・開発を行う事業者等には、本市まで出向いてもらい、本市で取り組んでもらうことを提供条件とする方針です。

② 大学、研究機関等との更なる連携

御協力いただける大学、研究機関等の中で、技術相談の一次受付内容を共有し、相談される方々のニーズに、よりの確に答えることのできる体制を目指して検討を進めることとしました。

③ 呉市の強み「健康づくり」を活かした連携の検討

「健康づくり」を呉市の強みとして発信する取組を強化することとしました。

疾病・介護予防の観点から、HALの実証を進めるとともに、産・学・官・金・医の更なる連携により、健康無関心層もターゲットにした新たな取組や、充実した医療環境や山海の幸、柑橘、多島美、漁業体験などの地域資源を活用したヘルスツーリズムに繋げていくことを目指すこととしました。